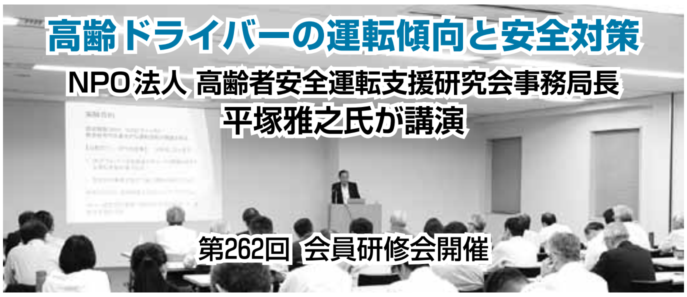

高齢ドライバーの運転傾向と安全対策

NPO法人 高齢者安全運転支援研究会事務局長 平塚雅之氏が講演

第262回 会員研修会開催

日本自動車会議所は9月27日、東京・港区の日本自動車会館「くるまプラザ」会議室で第262回会員研修会を開催し、NPO法人 高齢者安全運転支援研究会事務局長の平塚雅之氏が「高齢ドライバーの運転傾向と安全対策」と題して講演した。参加者は約80名。

平塚氏は、日本自動車連盟（JAF）に約26年在籍したのち、2012年の研究会発足に尽力し2013年より現職。近年は、特に高齢ドライバーと認知機能の問題に対し、独自の調査研究に基づき意見を発信している。日本認知症予防学会の認定資格である「認知症予防専門士」でもあり、高齢者安全運転研究のエキスパートとして、各種イベントやメディアに出演し、その認知～対策活動に尽力されている。

講演では、健常高齢ドライバーと軽度認知障害（MCI：認知症手前の段階）の疑いのあるドライバーとの挙動や脈拍・血圧等の身体的変化の比較調査結果より、その特徴について解説。「MCIドライバーの場合、些細なきっかけで起こるパニック（過負荷）状態で運転が疎かになる（不安全）状況が発生する」として動画データを交えて紹介した。

平塚 雅之氏

つづいて高齢ドライバーの交通死亡事故の特徴～事故を防ぐ安全対策について次のように述べた。

「事故が起きる要因としては無事故・無違反の自信や慣れ、老化に対する認識不足（視覚能力の低下、MCI等）にあり、特に慣れた自宅周辺での事故が多く、また昨今の車の性能向上が運転をサポートしている部分の認識がなく、自分の運転技量の衰えに気づかない（認めない）」。

最後に「事故を防ぐためには高齢ドライバーの特性を理解し、その行動パターンを読み、備えることと、MCIドライバーに対しては運転中、運転以外の負荷を極力かけない配慮が必要である。また、『孫からのお願い』（大切な人からの酔わない運転・減速運転のお願い）が安全運転を促すのに効果的である。さらに免許返納を促すためには、永年の運転への感謝の気持ちをこめて謙虚に依頼する必要がある」などと語り、講演を締めくくった。

「トラックフェスタTOKYO 2019」開催

交通安全と環境保全を訴求

東京都トラック協会

東京都トラック協会は9月14日、15日の両日、東京・渋谷区の代々木公園で、一般都民らを対象に交通安全と環境保全に対する意識高揚を狙いとするイベント「トラックフェスタTOKYO 2019～親子で体験　安全と環境」を開催した。昨年に比べ、野外ステージのプログラムやイベント広場のアトラクションを充実させたのに加え、会場をケヤキ並木にまで広げて多彩な飲食を楽しめるようにしたことなどから、昨年を1万人超上回る延べ約3万2,000人が来場する賑わいとなった。

今年はプレオープン日の14日も午前中から開場。グランドオープン日の15日は、オープンセレモニーで同協会の浅井隆会長が「私たち事業用トラックは暮らしと産業を支えるライフラインであり、震災等発生時には被災地へ救援物資を緊急輸送するなど、社会的にも大きな役割を果たしている。交通安全や環境対策についても最重要課題として取り組んでいる。本日は都民の皆さまにそうした業界の本当の姿を見て、感じていただきたい」と挨拶してスタートした。

野外ステージではプロレスラーの蝶野正洋氏らによるトークショー、障がいを持つ人などマイノリティーで構成するダンスチームの演技、和太鼓演奏などのプログラムを次々と披露。イベント広場では、大型トラック販社４社によるトラック展示をはじめ、代々木警察署騎馬隊による乗馬体験、東ト協支部によるミニ職業体験＝**写真**＝などさまざまな体験型のアトラクションや展示・物販が所狭しと展開され、好天の下、多くの親子連れらが楽しんだ。

このイベントは東京都、環境省、関東運輸局など10機関・団体が後援・協力。昨年を５つ上回る38社・団体が協賛して実施した。〔東京都自動車会議所〕

「くらしの足をみんなで考える全国フォーラム 2019」開催

「くらしの足をみんなで考える全国フォーラム2019」が10月26日（土）、27日（日）の両日、東京・文京区白山の東洋大学白山キャンパスで、右記の通り開催されます。主催者の同フォーラム実行委員会は、学者を中心に地域公共交通を担う事業者やNPO法人などが構成メンバーとなっており、2012年から毎年同フォーラムを開催して地域公共交通の維持・活性化に取り組んでいます。

フォーラムには、国の機関、自治体、大学・研究機関、バス・タクシー事業者、NPO法人、福祉・介護・医療関係などから多数の実務者らが参加し、討論やポスターセッション（取り組み紹介）、グループディスカッションなどを通じて実践例を報告し合います。「MaaS」や「CASE」と言われる変革の波が、私たちの暮らしにどのような影響をもたらすのでしょうか――。新たなテーマにも取り組みながら、「くらしの足」の課題解決に向けて活発な意見交換を行います。

記

日　時：10月26日（土）12：30～17：40
※17：40～19：30は懇親会
（事前申込制、会費3,000円）
10月27日（日）９：00～16：30
場　所：東洋大学白山キャンパス
（東京都文京区白山５－28－20）
共　催：（公財）交通エコロジー・モビリティ財団
後　援：国土交通省、厚生労働省、経済産業省、日本バス協会、全国ハイヤー・タクシー連合会など
※お申し込み・詳細はこちらから
https://zenkokuforum.jimdo.com/

日本自動車会議所ホームページ　新着情報ランキング（2019.9/1 ～9/30）　Google アナリティクスより

	ページタイトル	ページビュー数
1	経産省 消費増税時のポイント還元、自動車ユーザーにも恩典	2,747
2	国交省、「特定整備」の不安解消 事業継続の選択肢用意	1,216
3	国交省、自動運転システム整備に認証制度を新設へ 名称「特定整備」に	1,128
4	国交省、新たにエーミング作業も分解整備の定義に追加	1,108
5	第20回 夢を運ぶトラックデザインコンテスト 神奈川トラック協会	912
6	9月16日「北海道モータースポーツフェス」開催、多彩な体験メニュー、現役ラリードライバーが同乗走行、バリアフリーイベントとコラボ	818
7	警視庁 外国要人の多数来日に伴う交通規制（即位の礼期間中の交通規制）	802
8	国交省、車検証をＩＣカードに ２２年度中に切り替え	764
9	経産省、超小型モビリティ購入に補助金	557
10	欧州のＣＯ２排出規制強化、対応迫られる日系各社	491
11	経産省、ＦＣＶの普及拡大へ 水素価格３分の１に、ＳＴ開設コストも半減	388
12	ホンダ、燃料電池の研究範囲拡大 商用車や鉄道にも応用	333
13	警視庁 秋の全国交通安全運動 交通安全都民の集い	322
14	パナソニック、新戦略で車載事業へ再挑戦 電池は津賀社長が陣頭指揮	310
15	停電・断水続く千葉、自動車業界が支援活動 ＥＶで給電／簡易ライト配布	299
	総数（16番目以降も含む）	50,577

訃　報

マツダ元社長
（当会議所元常任理事）

古田 徳昌氏

マツダで社長、会長を務められた古田徳昌氏が９月９日、逝去された。91歳だった。古田氏は通商産業省（現経済産業省）貿易局長などを経て1985年にマツダ入りし、1987年社長に就任された。1991年副会長、1992年会長を務められ、1996年に退任された。この間、当会議所常任理事（1987年～1996年）を務められた。

トヨタ自動車元副会長
豊田自動織機製作所（現豊田自動織機）元会長
（当会議所会員元代表者）

辻 源太郎氏

トヨタ自動車元副会長の辻源太郎氏が逝去された。98歳だった。辻氏は、トヨタ自動車で常務、専務、副社長を経て、1986年副会長に就かれた。1988年に豊田自動織機製作所（現豊田自動織機）会長に就任され、1993年まで務められた。